

# 「選ばれる都立高」へ危機感

## 都教委、探究学習の各校

東京都教育委員会が「選ばれる都立高校」へ危機感を強めている。都立高への進学者は減少が続き、2025年度の応募倍率は過去30年で最低だった。オンライン学習が特徴の通信制の人気や私学無償化が一因だ。都教委は29年度にもオンラインやゼミ形式の授業を取り入れた新たな高校を設置するなど、受け皿作りを急ぐ。

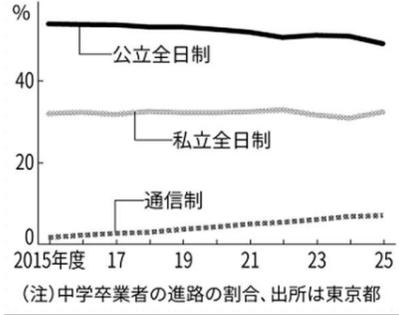
## 応募倍率、過去30年で最低



都立高校の魅力向上に向けた議論が始まった（11月、都庁）

11月、都教委が「都立高校の魅力向上等に係る懇談会」を立ち上げた。学識経験者のほか都内の教育関係者、数学者で大阪・関西万博のパビリオンもプロデュースしたジャズピアニストの中島さ

### 都立高校は入学者が減少



### 通信制・私学無償化が一因

一部の進学校などを除き、都立高の人気は低迷傾向にある。都内の公立中学校などを卒業した生徒で、公立（全日制）に進学した人は25年度に3万8118人と前年（3万9567人）より4%減った。都立高校の応募倍率は0.09倍低下の1・29倍で、比較可能な30年で最低だった。一方で私立高校（全日制）は5%増の2万5235人。都内では24年度から私立高校の授業料が実質無償化された。個別指導塾「明光義塾」を展開

ち子氏らが委員に名を連ねる。中学生や保護者から「選ばれる」ためにはどのような施策が必要か、今後約2年間議論する。

## News 展望

開する明光ネットワークジャパンが10月、全国の保護者に実施した私立無償化に関する調査では、8割が志望校の選択肢が「広がった」と答えた。通信制の人気も目立っている。25年度の進学者は3%増の5541人。10年前の4倍に上る。通信制高校は全国に332校（25年度）と20年前のほぼ2倍で、3つの都道府県以上から生徒を集める「広域通信制」への大手企業の参入も相次いでいる。

通信制に詳しい愛知学院大学の内田康弘准教授は「不登校経験者の受け皿としてニーズが高まっているのに加え、近年はICT（情報通信技術）や国際化など特色を打ち出す学校が増えた。進んで通信制を選ぶ生徒も増えていく」と解説する。都教委が実施したアンケートでは、通信制への

進学を希望する中学生の多くが「自分のペースで勉強できること」や「自分のやりたいことと学業の両立を理由に挙げた。こうした需要を踏まえ、都教委はデジタルとリアルな教育を融合した新校を開く。東京メトロ白金高輪駅（東京・港）近くで29年度にも開校する見込みだ。いつでもどこでもオンラインで受けられる授業のほか、外部の研究者や実業家からも学ぶ機会を設け、個人の興味を尊重した探究学習を取り入れる。

さらに、国際的な教育プログラム「国際バカロレア（IB）」の採用校を新設することも計画する。都立高校として特色ある学校を増やし、生徒や保護者の多様な人材育成需要を取り込む。都立高校は平成中期以降、生徒数の減少に合わ

せて統廃合や学科の改編が続けてきた。当時も学校の個性化や特色化を目的に掲げたが、全国の私立高校の2割が集中する都内では競争が激しく定員割れも目立つ。都教委が開いた懇談会では委員から「公教育と

して、ビジネス的に成立しづらいところに目配りすることも必要だ」との指摘もあった。都立高の魅力向上には応募倍率に固執することなく「求められる教育」と「あるべき教育」の間で適度なバランスを取ることも必要だろう。（久保田皓貴）

許諾番号NK001162 日本経済新聞社が記事利用を許諾しています。